

【学生による ESD 支援活動】
奈良市立西大寺北小学校 野外活動支援 報告書

国語教育専修 1 回生 林 祐希

1. 日時 平成 30 年 10 月 3 日 (水) 8 : 25 ~ 20 : 00
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター (奈良市阪原町 25-1)
3. 参加者 林祐希、糸綾香、藤井愛華、仲村幸奈、後藤旭、岡本英里 (学部生)
奈良市立西大寺北小学校 第 5 学年児童、教員

4. 活動支援内容

平成 30 年 10 月 3 日 (木)、奈良市青少年野外活動支援センターにおいて、奈良市立西大寺北小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 6 名がその支援に当たった。1 泊 2 日のうちの 1 日目に行われたオリエンテーリング、野外炊飯、そしてキャンプファイヤーの活動支援を行った。当日はいささか暑さを感じるほどの晴天に恵まれ、無事終えることができた。

今回の支援で私が学んだことが 3 点ある。1 つ目に基準を明瞭にすることの重要性、2 つ目に下調べの大切さ、3 つ目にけがはたやすく起こることについてである。

1 つ目は基準を明瞭にすることの重要性についてだ。今回は 2 度の事前指導にも行かせていただいたのだが、そこで特に何度も強調したのが「必ず全員でスタンプをつくる」ということだった。これをきちんと伝えることで生徒の話し合いが進みやすく、私たちのアドバイスも受け入れやすかったと思う。本当に危ないことは叱る、人を傷つけることはしない、全力で楽しむこととふざけることは違うなど大人の叱る基準はきちんと子どもにも共有したほうが良いことを感じた。

2 つ目は下調べの大切さだ。今回はオリエンテーリングのポイントに立って子どもたちを誘導するという支援も行った。私はきれいな川の上にかかる橋で待機していたのだが、ときおりチョウトンボのようなトンボが水辺に来たり、魚が跳ねたりするのを見ることができた。児童も魚に気づいてはしゃいでいたが、もしこの事実を事前に下調べして知っていたとしたら、さらに自然に対して興味を持てるように働きかけられたかもしれないと後悔の念に駆られた。これからはリスクについてだけでなく、子どもたちにさらに良い野外活動を体験してもらるようにその地のポジティブな面についてもきちんと調べていきたい。



野外炊飯に臨む児童たち

3 つ目はけがはたやすく起こることである。野外炊飯の支援では、私は 1 班の調理を見るということで打ち合わせをしていたが、隣の班に先生がなかなか来ることができず、その班にも気を配ることとなった。無事怪我無く終わったものの、担当の班から隣の班に目を移したときなど、ひやっとするシーンはいくつかあった。私自身も自身の野外活動で顔にやけどを負ったことがあるので気を付けようと思っはいたが、隙はできるものだ痛感した。さらに気を引き締めてこれからの支援に臨みたい。

今回は三つにまとめたが、小さな気づきはここに書ききれないほどある。これからも支援に積極的に参加してたくさんのことを学びたい。